

●『書名』 特別支援教育の到達点と可能性

-2001~2016 年：学術研究からの論考-

著者： 柘植雅義&「インクルーシブ教育の未来研究会」編

発行： 2017 年 9 月

価格： 本体 6000 円＋税

判型： B 5 判, 290 頁

ISBN： ISBN978-4-7724-1561-3



【内容紹介】

本書は、わが国で長く続いた特殊教育から、新たな特別支援教育への歴史的なパラダイムチェンジの助走が始まった 2001 年から 15～16 年が経過したという一区切りの時期に、この間の特別支援教育に関する学術研究の到達点と課題と展望を集大成したものである。つまり、レビュー論文を集約した本である。

さらには、学術研究のみならず、そもそも、特別支援教育はどこまで到達し何が課題として残っているのか？、また特別支援教育が社会に浸透していく中で新たに生まれた課題は何か？ そして、そもそも特別支援教育はどこに向かおうとしているのか？、インクルーシブ教育の可能性や方向性は？、というような問いに答えていくための基礎的な資料（根拠）という位置づけも本書の意図である。

実は、この様な根源的な問いは以前から気になっていたものであり、障害のある子どもの教育に関する 100 年以上の歴史、特別支援教育の現状と成果、そして、課題を整理して今後を展望した拙書、柘植雅義（2013）『特別支援教育—多様なニーズへの挑戦—』 中公新書（中央公論新社）において、既に一定の取りまとめを行っている。

本書は、それを踏まえて、特別支援教育に関連する分野の全体を漏れなく俯瞰すべく、第一線の研究者等 100 名ほどが執筆に参加した。構成は、第 1 章 到達点、第 2 章 課題、第 3 章 展望と期待、第 4 章 未来を描く（座談会）である。第 3 章では、今後のさらなる充実発展に向けた思いや期待を、各学会の代表者、保護者、教育関係者、教育行政関係者にそれぞれの立場から提案してもらった。さらに、第 4 章では、この分野の著名な研究者による座談会の様子もまとめた。

【出版社の書籍紹介ページ】

<http://kongosheppan.co.jp/dm/1561.html>

【著者紹介】

柘植雅義： 筑波大学 人間系 障害科学域 知的・発達・行動障害学分野